

信仰年を宣言したベネディクト十六世



信仰の危機

「新たなる」への希望④

ローマ教皇ベネディクト十六世は十月十一日から来年十一月二十四日までを「信仰年とする」と発表した。初代ローマ教皇は十

二使徒の一人、ペトロト十六世は三百六十五年余の間、教皇の地位は綿々と引き継がれて

きたのだが、キリスト教の歴史をみると決して平たんではなかつたことがよくわかる。

一〇五四年、教義や典礼上の問題から教会は東西に分裂した。

東方正教会はギリシヤ正教とも呼ばれる。

ここでいうギリシヤは國名ではなくギリシャ語の意味で、初代教会のころの共通語はギリシャ語で、新約聖書もギリシヤ語で書かれていた。

一方、西方教会はローマ教会またはラテン語が用いられていたことからラテン教会とも呼ばれた。その後、ローマ教会は中世の宗教

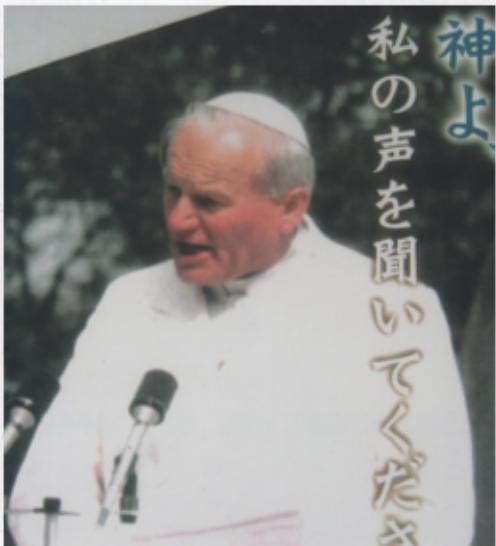


藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)

320

神よ

私の声を聞いてください



広島で平和アピールをしたヨハネ・パウロ二世

議は二十一回目の公会である。

最初のころの公会議はキリスト教全体のものだったが、現在の公会議はカトリック教会の教義などを協議する最高権威を持つものになっている。

ベネディクト十六世が第二バチカン公会議から五十年の節目の年を信仰年としたのは、「現在、信仰は深刻な危機にある。その原因は

信仰の価値観に基づいて行動することのない信条にある」と指摘し、「信徒一人々々に信仰の危機を自覚し、それを克服するよう呼びかけられる。たるものといわれる。」

葉がぐさりと胸に突き刺さる。私はの信仰はまさに、信仰に基づいて行動することのない信仰と認めざるを得な

い。毎週日曜にミサに行つても、そこから信仰の価値観に基づいた行動する力をもって行動しなければ、それは死んだ信仰だ。

ローマ・カトリック教会と、カトリック教会のあり方を批判、抗議(プロテスト)したプロテstant各派に分かれた。

以上の経過から現在のローマ教皇はキリスト教全体の頂点にあるのではなく、カトリック教会の頂点であり、小さな独立国家・バチカン市国の元首でもある。

今年は第二バチカン公会議が開催されて五十年の節目の年にあたる。公会議はキリスト教の教義などの正統性を守るために世界中から代表が集まつて協議する場で、第一回目は三二五年にトルコのニ

カニアで開かれていた。日本でよく知られているのは一九八一年に来日したヨハネ・パウロ二世だ。被爆地

で開かれていた。第二バチカン公会議は二十一年に開かれていた。日本でよく知られているのは一九八一年に来日したヨハネ・パウロ二世だ。被爆地

で開かれていた。第二バチカン公会議は二十一年に開かれていた。日本でよく知られているのは一九八一年に来日したヨハネ・パウロ二世だ。被爆地



長崎集会でのワッペン